

2009年度 前期	曜日・校時 水・1	必修・選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	総合英語 I (Comprehensive English I)		
対象年次 1年生	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等) Kd (環境科学部)	科目分類 外国語科目(英語)		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 担当教員: 松元浩一 /Eメールアドレス:kmat@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 教育学部 619号室 /TEL: /オフィスパワー:水曜日12:00~12:50			
担当教員(オムニバス科目等)	該当しない		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: (1) TOEIC, TOEFL等の読解テストにも役立つように英文を文法的に正確に読み解けるようにする。速読の練習も必要に応じて行う。(2) 文中の語句や表現を習得し、英語による表現に応用できるようにする。  授業方法: (1) 演習形式。予め指定された箇所を全員が語句や表現の意味を調べ、内容を発表できるように準備する。授業中にランダムに指名して発表してもらう。(2) 着実に英語の力をつけるために確認テストを3回程度行う。(3) おりにふれて、リスニングの訓練も行う(ただし、主たる目的は読解力の養成である)。  授業到達目標: TOEIC, TOEFL等の読解力テストで70~80%の正解が得られるような力を身に付ける。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) <i>W. Faulkner's Short Stories &amp; Speeches</i> は4篇の短編作品からなる。いずれもノーベル賞作家らしい峻厳なまでに真摯な生き方と、強烈な人間愛を感じずにはおれない短編である。  第1回 授業の進め方、評価の説明、教科書の説明、単元 <i>A Rose for Emily</i> , pp. 1-5. 第2回 <i>A Rose for Emily</i> , pp. 6-11. 第3回 <i>A Rose for Emily</i> , pp. 12-17 第4回 <i>A Rose for Emily</i> の表現・文法の総括 第5回 確認テスト(1) 試験後に解説・総括、その後リスニングの訓練 第6回 <i>Faulkner's Speech</i> , pp. 18-20. 第7回 <i>To the Youth of Japan</i> , pp. 21-24. 第8回 <i>Faulkner's Speech</i> と <i>To the Youth of Japan</i> の表現・文法の総括 第9回 確認テスト(2) 試験後に解説・総括、その後リスニングの訓練 第10回 <i>Wash</i> , pp. 25-28. 第11回 <i>Wash</i> , pp. 29-32. 第12回 <i>Wash</i> , pp. 33-36. 第13回 <i>Wash</i> , pp. 37-40. 第14回 <i>Wash</i> , pp. 41-46. 第15回 定期試験(確認テスト(3) およびその解説・総括、リスニングの訓練(通常授業))  上記「授業方法」に示したとおり、授業ではランダムに指名して予習した内容を発表してもらうので、指定された箇所の語句、表現、文法事項を十分調べておくこと。			
キーワード	読解力の養成 文法、語句、表現の習得		
教科書・教材・参考書	読解 William Faulkner. 2000. <i>W. Faulkner's Short Stories &amp; Speeches</i> . Kaibunsha. 各自購入のこと 聴解 Tatusro Yamazaki. 2002. <i>Japan Update</i> . Tokyo: Kinseido. ~購入不要(印刷資料を準備する)		
成績評価の方法・基準等	授業時の発表 50% 確認テスト(1)~(3)の成績50% 学生便覧にあるとおり授業総回数の3分の1以上欠席し学生は受験資格を認めない。		
受講要件(履修条件)	履修便覧や全学教育の規定にあるとおり、原則として全回数授業に出席しなければ単位として成立しない。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	上記「授業のねらい」に提示したとおり。		
備考(準備学習等)	要望:授業には常に英和辞書か英英辞書を持参すること。		